

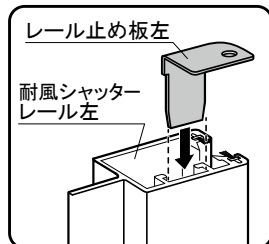
イナバガレージ 耐風シャッターレール組立説明書

【N: 連棟数】

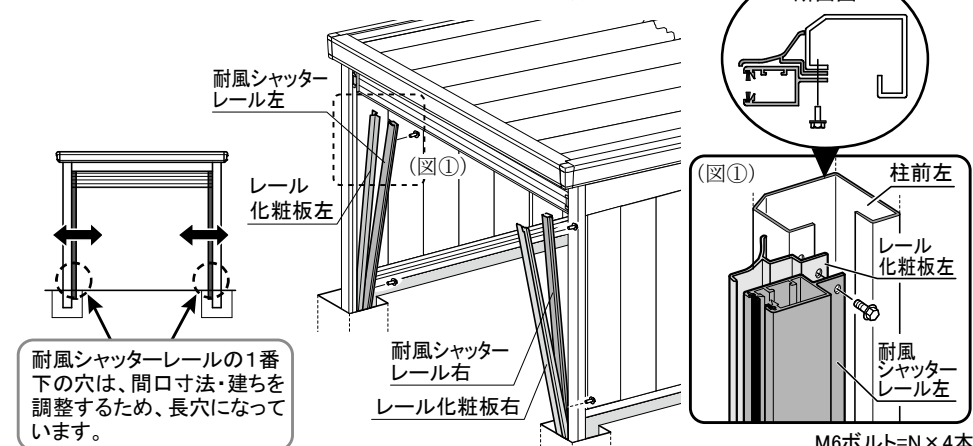
- ・耐風シャッターレールは、耐風シャッターが取り付け間口3130、3630mmタイプに取り付けます。
- ・間口が2630mm以下のタイプとの連棟の際は、取り付け間違いがないよう注意してください。
- ・リモコンシャッターの場合、錠押えの取り付けは不要です。

◆本体の組立説明書を参照し、「シャッターレール・レール止め板の取付」の前まで組み立ててください。

- ① 耐風シャッターレール上部にレール止め板をたたき込みます。

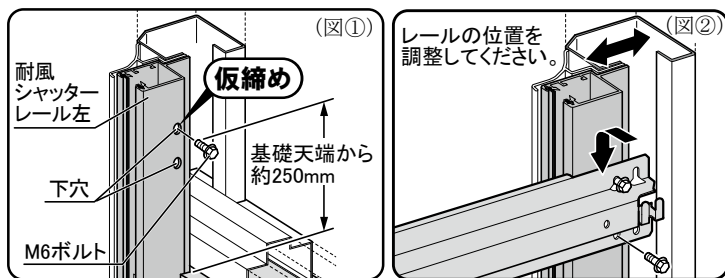


- ② レール化粧板と耐風シャッターレールをあわせて、1番上と1番下の穴を柱前にM6ボルトで仮締めします。

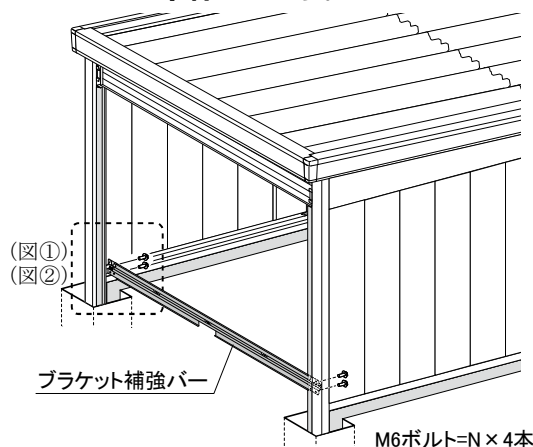


- ③ 耐風シャッターレールの上下穴(図①)にM6ボルトを仮締めし、ブラケット補強バーを引っかけます。次に下の下穴にM6ボルトを取り付け、間口寸法を確認してからM6ボルトを本締めします。

※ブラケット補強バーが取り付けできるよう、耐風シャッターレールの位置を調整して間口寸法を必ず確認してください。



※下穴にねじ切り加工はありません。M6ボルトを強く締めることで、レールにねじを切ります。



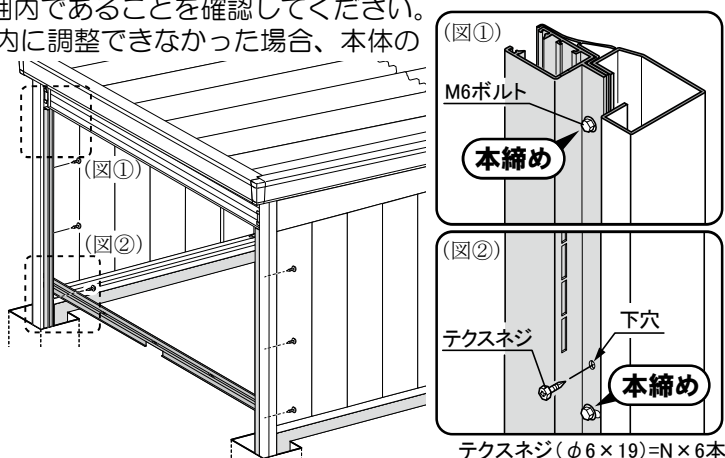
- ④ 下げ振りを使って耐風シャッターレールの傾きが3mm以内になるように取付位置を調整してください。

②で仮締めしたM6ボルトを本締めします。
裏面のチェックリストを用いて、寸法が許容範囲内であることを確認してください。
(耐風シャッターレールの取付位置で許容範囲内に調整できなかった場合、本体の間口・建ちを調整してください。)

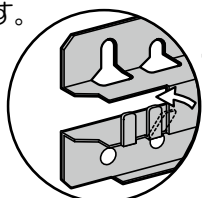
※許容範囲内に取り付けできていなかった場合、強風によるスラットのはずれや開閉操作の不具合などの原因となります。

- ⑤ 耐風シャッターレールの下穴に合わせて、テクスネジ(φ6×19)で柱に固定します。

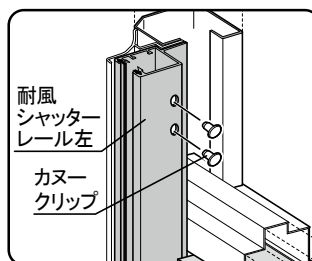
⚠ 注意 テクスネジで取り付ける際に出る切粉が本体に付着すると、錆の発生につながりますので必ずきれいに取り除いてください。



- ⑥ ③で耐風シャッターレールに取り付けたブラケット補強バーとM6ボルトをはずし、カヌークリップを取り付けます。



※ブラケット補強バーのツメはもどしてください。

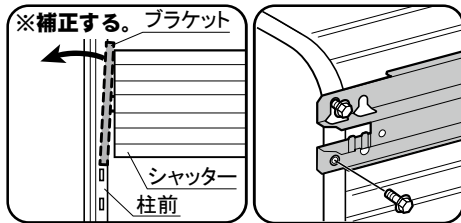
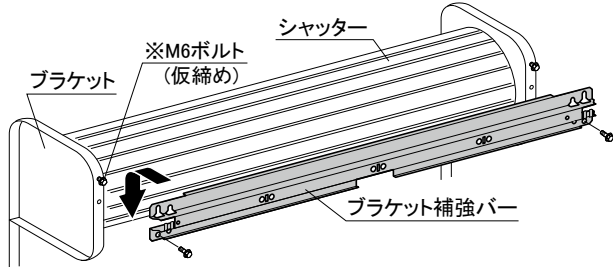


カヌークリップ=N×4本

◆裏面に続きます。

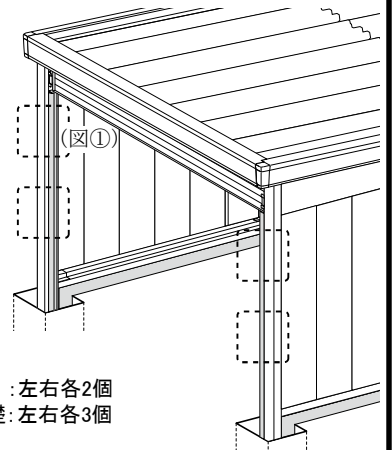
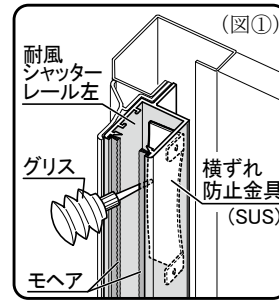
- ⑦ ブラケットの上のネジ穴にM6ボルトを**仮締め**し、ブラケット補強バーをそのボルトに引っかけます。次にブラケットのゆがみを補正して下のネジ穴にM6ボルトを取り付け、仮締めしたM6ボルトを**本締め**します。

※ブラケットのゆがみは不具合の原因になります。



M6ボルト=N×4本

- ⑧ 耐風シャッターレール内側の横ずれ防止金具にグリスを塗ります。グリスは少量を薄く塗りのばしてください。
※グリスがモヘアに付着しないようご注意ください。



横ずれ防止金具

- ・Sタイプ/Hタイプ/S高基礎 : 左右各2個
- ・Jタイプ/H高基礎/J高基礎 : 左右各3個

※組立時に使用したグリスはメンテナンスにも使用しますので、捨てずに保管してください。

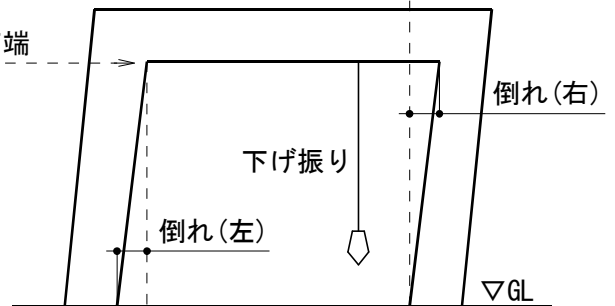
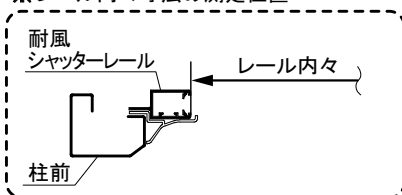
◆本体の組立説明書にしたがって組み立てを進めてください。

耐風シャッターレール取付チェックリスト

検査方法の説明



※レール内々寸法の測定位置



シャッターレールの倒れは、下げ振りを使用して測定する。

(または、暫定的に水準器にて確実に倒れを修正すること。)

チェックリスト表

検査・検査基準

種別	検査項目	許容差・検査基準	検査器具	検査の方法内容	測定結果	合否判定
寸法検査	1. W寸法 (レール内々)	(上) + 2 mm, - 0 mm	鋼製巻尺	上下、2点測定	(上) mm	合格
		(下) ± 2 mm			(下) mm	
	2. 耐風シャッターレールの倒れ	± 3 mm	下げ振り 鋼製巻尺	W方向	(W右) mm	合格
					(W左) mm	

シャッターに同梱されているチェックリストを確認し、取付完了後の検査を行ってください。

取付作業者

サイン又は印

検査記入日 年 月 日

記入後の「チェックリスト」は必ず保証書保管ケースに入れてください。